124

No.2.

松のはなさきしに物見てまゐるくせとあつ稀く此さしし
の絵をとらへるよりてうつたに行く帯しあふさ
はきみ、おもふくま物ゆかしさすさは、那々山をとはるる
けるよりの海川よおよく臭あるいゑむし持笑めくる
たびよへてうつる中いより作をよる好さ可てるにた
あやき上手の名ワさしてそれ此法人のよ好絵ら
まさしくおかしくくるたかき人の便けるやまおつふ
こらくしききわりねしの為やくしき法師のいこさ
とけ出法ものせの志くりか本年くましの伊あつえ

もきこひのあくしきいはゆるのみのしまうら
なるうつゝの老ひとえひなまるみとりなよし
かく男くる後やるひと衆務てそのよ馬のくら
こしゑのくえそうちゆゝれんとまよつみ孫ゝえんかき
いろあきくえん志やかちかそつくりかへぬりあきく人
わんやしきとみをかつきめまむ人数あくるさ後
ゆひくさ後わくるまゝいぬるさ後やうしくさまくの
わらかえひきなかいきてえくかくそわかゆる
大の絵師をたれそくそふよ此えんの上よます

ゑんる和気の名ねかりえをますゝやよのひとの孫と
ありこしくこゑのうせりつゝふ人ハこゝらの門の
北辰よひふまくえる犯つかる田つゝ卑く風る
かひくるまかせ淡しゝかわのれしこけ得るひか
みく物ゝのみも世人ゝいくしゝかりたく此ぬし
の絵そしみれんはな光てるわなかれしくいつくゝ
老高みなれくまてえや奥まるこつくかやよまし
あるこ彼人よゝわえよさはわかりくくかし
こうろかは八まくいて老ぬるこつそと　此然へて

たのしさはつらきもたくひなき絵のよしあし
見わけさわきそしかれまよふまやはなし

六樹園しるす

鼉
應竜
雨竜
蚺蛇

釋迦
出山
跋陀羅尊者
鳴神
頼豪

注茶
半託迦尊者
那伽犀那尊者
跋羅駄闍尊者
空海
浴性坊

半諾迦尊者
伐那婆斯尊者

因揭陀尊者
目犍連
座禅
頂香
手燈

地獄（ちごく）

水車
みづぐるま

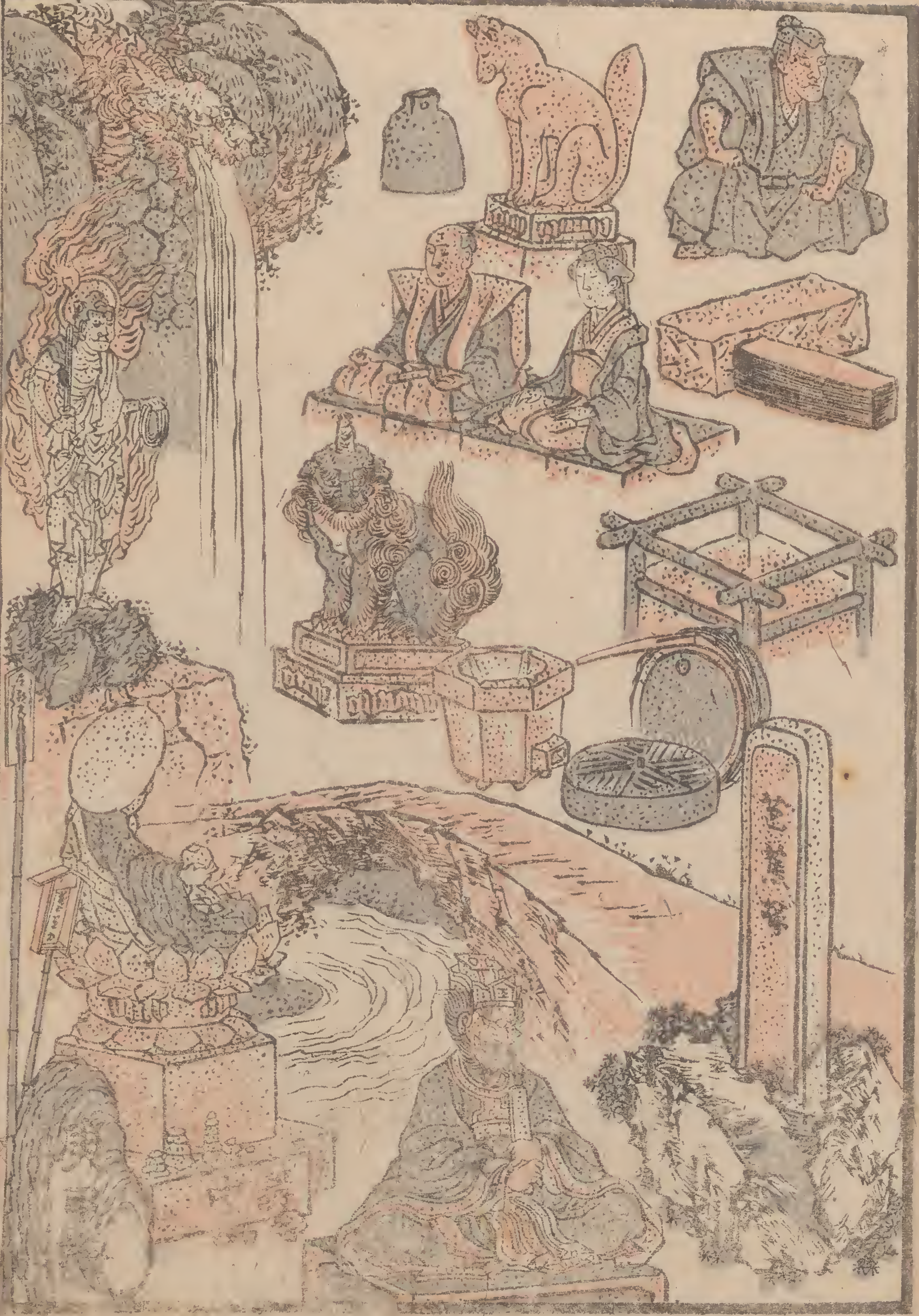
風舟
ふうせん

ぶがく
大てんぐ
小てんぐ
げどう
ひよつとこ
げどう
さる
てんぐ

はんにや
なまなり
ぜう
うば
やせ

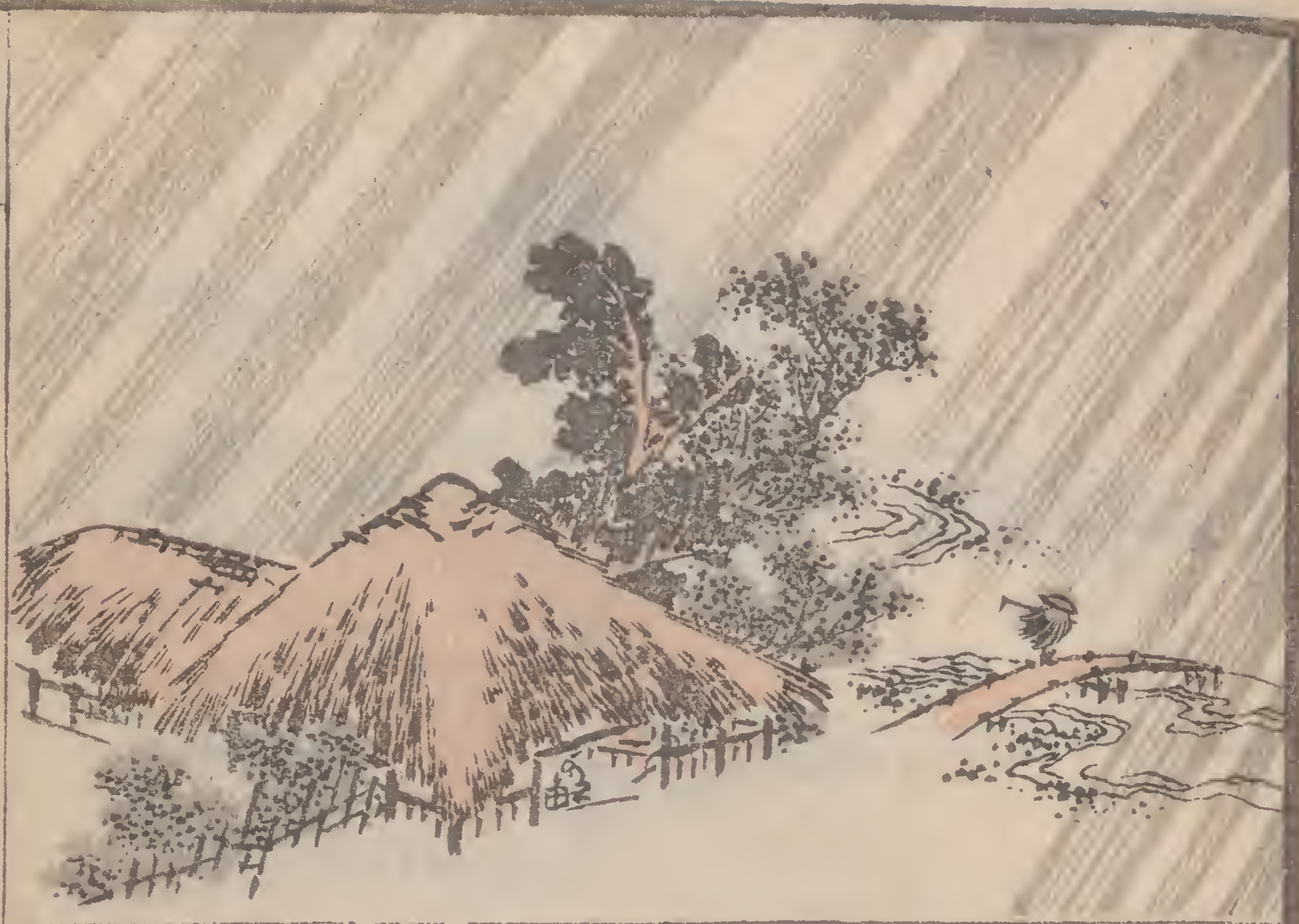
維摩居士

西壁之像



奉納

東



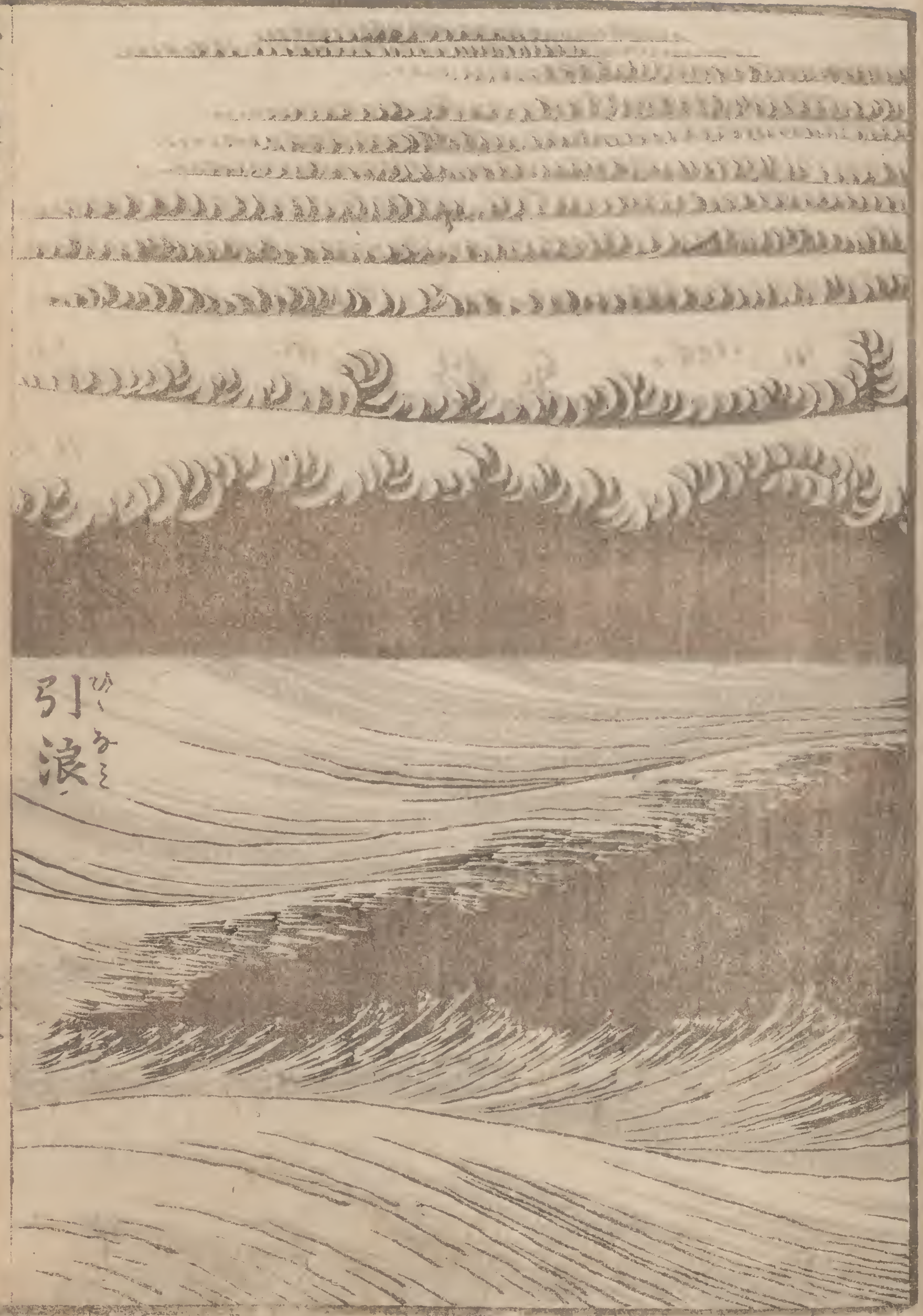
もくれん
はらん
くさふじ

こち
あんこう
ひらめ
たちのうを
ぼら

はぜ
だぼはぜ
きんぎよ
どぢやう
めだか
ふな
はや

このしろ
さかまた
ふか
かます
つのざめ
いとし
あなご
あおりいか
うばく

奇浪（よせるなみ）


引浪（ひくなみ）

渦巻水（うづまきミづ）

浅き瀬（あさきせ）

はなたばこ
花烟草
くそばひ
ことんぼう
こがねむし
けむし

蜂巣 はちのす
てんとうむし
あり
くも
やもり
てう
みゝず
ゐもり
ひる
ふなむし

かはほり
むさゝび
てん
風狸 ふうり
かまいたち
石燕 せきえん

白澤（はくたく）

貘（ばく）

江都書林衆星閣蔵板目録

金匱要略輯義 法眼多紀先生著 全十冊
諸名家の説を委く論じ先生の考を加へ金匱の注釈ハ此書にてつくせりと云ふべく医家必用べき書也

掌中詩学筌蹄 小林順信卿著 折本一冊
此書ハ初学の人詩を作るに安からしめん為に四季人事の詩題を分ち其に用ゆべき熟字数楚を多く集め是に平仄を記しまた此書にていろいろ便りとす

十七帖 晋王義之書
王義之の草書十七帖を第一とす書を学ぶにちやうほうなるてほんなり

狂詩砕錦 六樹園先生著 小本全二冊
狂詩に用ゆべき語并熟字をあげ悉く平仄を附き初心の人此書をもつて立所に狂詩を作らん事自在ならしむ

滑川談 大峰冢田先生著 全一冊

作文率
文用例証 北山先生著 全四冊
古今文章の奥旨を論じ書法の例をあぐ又文章をまなぶ人にいろいろくちやうほうの書なり

孔子系譜全図 露木直信撰 一枚
孔氏の始祖黄帝より聖人一世の徒並嫡家歴代衍聖公襲封并にことごとくたえざることく支流乃孫賢達の人々の伝を記せりまたべく孔氏一家のことをしるにたよりよき書なり

杏園詩集 蜀山先生著 近刻

同 文集 右同 同

入官第一義 大峰冢田先生著 全一冊

聖道弁物 右同 全二冊

麹町平川弐丁目
書物問屋 角丸屋甚助

庭訓往来捷注 駒龍先生著 全一冊
此書ハ本文を大文字にて書たまふ初学の手習の手本と為べし音訓ハ本文の傍に[illegible]の注解の[illegible]古より[illegible]の注に[illegible]たる[illegible]を増補せり庭訓往来のよみ此一書につくせり

古状揃捷注 近刻
庭訓注解のごとく童蒙独学なるちかみちの書

實語教捷注 同 全一冊
右に同く嬰児にも解しやすきちかみちの本

同 證注 全一冊
右に同く本文のぎ[illegible]細注して童蒙の[illegible]

新撰碁經大全 秋山仙朴著 全三冊

武家諸法度 全一冊

増補徳用萬宝蒔絵 大本 四冊 小本 四冊

關流算法點竄指南 梅田 大原西先生閲 全三冊

増補塵劫記 全一冊

大字改正早引節用 全一冊

桃林句選七巻集 中本 一冊

俳諧田ごと乃日 桃林先生著 小本一冊
からの四季の季よせに[illegible]古今乃句を[illegible]注解を加へ[illegible]

俳諧四季寄 四季名ところ勢 寸珍懐中 鐘開齋老人著 全一冊
四季よせ[illegible]

北齋漫画初編 全[illegible]
さまざまの[illegible]を写し編を続ぐ全部[illegible]

同 二編
初編に[illegible]山川鳥獣魚[illegible]虫に至るまで[illegible]

同 三編
二編に[illegible]

同 四編
[illegible]筆を加へ席上の[illegible]

同 五編
[illegible]

同 六編
剣法[illegible]

書札獨稽古 岩田夫山先生書
[illegible]大字[illegible]

草紙形詩歌 右同 墨帖 一本

ちらし形 右同 大本 一冊

手沢風月往来 全一冊

女今川綾錦 全一冊

御家年中書状箱 文海堂書
四季の文章[illegible]

遠州頌流生花記 一陽齋芳祇先生著 中本 二冊
遠州流の花形[illegible]

同 七編
國々名勝の地風雨雪月の景色をしるす

同 八編
前篇にもれたる所を補ひ且諸職の業をしるす

同 九編
和漢の武者および貞婦烈女のたぐひを載す

同 十編
神仏并に貴僧高僧幻術并に風流の人物を記す

三體画譜 戴斗画
真行草の三体にて人物山川草木禽獣虫魚に至るまであまねく巻中にしるせり

戴斗画譜 全部十冊
先生七才より五十有四年画法の独学の筋骨を正しく画師の一助ともなるべくあらはせり

略画早指南初編 戴斗先生画
此書は○口の二つをもつて多くの形をゑがき其外規矩をもつて画く画の法にかなひやすきを要とす

同 二編 早稽古 同
此書は山水天狗の一としく山水ならびに人物の形をゑがき其外いろはをよくしるす

同 三編 早稽古 同
前篇にもれたる所を補ひ且その一二三の合せ方を記し其上学ぶ者の要とす

同 四編 早引前編 同
此書は画本いろは引にて人物草花鳥獣仙人等をあつめ生写しにて求めやすきを要とす

同 五編 早引後編 同
前篇にもれしかるゆへ初篇と同じくすべて求めやすく此書にあらはせり

商人鑑 戴斗画
市中商家四時のいとなみを載せて大坂の店々を表し一助ともなるべし

吾嬬百人女玉章 葛飾北斎画 女用文章 今川入

萬代百人操文庫 画人右同

南畝莠言 初編二冊出来
此書は南畝先生数十年の随筆の中より抄出して世に益ある要とるものをあつめ和漢の書籍を本として古今の事実を考へたるもの也

千紅萬紫 初編出来 二編近刻
蜀山先生狂文狂詩狂歌のさくをあつむ

和文 六樹園著 前編出来 後編近刻
初学のいちはやく心得べきことをかきたるものにて和文を学ぶ人の為になるべきものなり

徒然草新注 同著 全三冊

光琳画譜 大本 二冊

大成百人智恵鑑 北斎画 女今川入

通俗排悶録 六樹園譯 絵入 十冊
孝行 忠義 貞列 友愛 琦行 明断 義侠 玩世 仙縁 霊異
此書は八清の孫洙がさくなりまへくは明の末より清朝までの見聞しきたる人の伝をあげたる小説 鑒戒のたすけともなるべき書なり

源注餘滴 六樹園著 全二十巻
源氏物語のとけがたき所ともをよく説き文を引て詳に古注ともにあまた誤りを補ひ各出所を附注を湖月抄岷江入楚をよくまとめ此書によりてその義をただされ古注の誤りをあきらむべきなり

雅言集覧　六樹園著　初編 二編　三冊出来　嗣出

此書ハいろは分の部をわけ古書のうち古物語の詞を出し日数をきはめてとりあつめそのかみの俗語を小さく訳しける書なり。たとへば［さゞらく］といふ詞あり。「源氏帚木の巻十四丁ウラ二行のうまのかみさだめの博士になりてさゞらきゐたり」「落窪巻の二てんやぐ雑紙とて世のうちをとさゞらきぬとうちにとどめしとかくあたまをたちぬさゞらきて「紫式部日記に云」「撰集に云」「和名抄に云」「新撰字鏡に云」ことさらくそのもとをあげつく「帚木の巻八十六丁のうまのかみがいふくだりにしるせるさまなり」「落くぼ」の典薬がいはくなりさまいひて勝手もよふ日記あるいはさまざまに口もとをもあし「発心集」あるいは、あどなきまゝにいひつたへてさまざまに「和名抄」に動痛と訳してゆかれあるいふいにわれにもそゞろくといへるハ、いそぎかくうごきいてさうらくさまざまにいへる「明月記の説」にきちんとさまざまに見えその何ぶんのやうにいひなしてつかひなすもとに「しかるべき書」を訳せる書にあるさぞくめのまゝ人にあふくりの書の日記の言ひ出ではおもしろきものなり。たとへ実に和文ぞきならぶ人のためには撰経とあるべき書なり

寐覚乃すさひ　六樹園漫筆　全五冊

狂文 阿淡波なまの皇　同著　塵外楼清澄校　全二冊

こまかに人をたゞすくあつくむつまじくきよらかなるふしはなくまじりてまどひなりごとのおよそはいづれもかくのごときそのあとにうつりなるものにいにしへの人はいとふかきところをあらはせるものなり

狂歌 葉津加蛭子　六樹園撰　全二冊

四季の詠歌より恋雑にいたるまでとりしきふしをのせて、ひてさかんなる詞にあやまりなき狂歌をよしんの手本ともなるべき書なり

新撰 萬代狂歌集　撰者右同　全四冊

此集は和歌安永のはじめよりいまにいたるまで名だたる狂歌の作者たちのさうなるうたのなかより人ぐのたつものをえらびてしかも狂歌のさとよくさだめてあげて、かのこゝろもよくかなふにあらず。ねがはくハうちのはじめよりこれまでをふくめてかきそへ、よくおもむくべきありさまにあらん人々のうたの集のうちより撰びてうつるべきにあらず。その狂歌のあるものはきゝよき出て、まづさきにまなびたるうたをゝなじくたりけり。あまたの集にもすぐれたるさま今の二月まで集をしてたゞちにもあつめたりけるに、なほこの集ちゑあるべきにあらざることをしるべし

文化新撰 狂歌百人一首　六樹園撰　大本全一冊

秀逸の狂歌に肖像をそへおよそ奈良の時よりの戯笑歌中興の俳諧歌近代名ある人くの狂歌をのせしかもすぐれたるをくみて古今の風俗をさとり人をしてよしとするものあるべからず

狂歌道中記 武者畫狂歌合　撰者右同

五十三次の名所によそへて古の勇士の肖像に狂歌をそへしさまをうつしたるものなり

狂歌濱荻集　便々館湖鯉鮒大人撰　小本全三冊

四季恋雑の部わけをあつめてそのよくきこえたる狂歌をあまたあげてたよりに帯上の小冊なりといへどもよくひろめたり

飛彈匠物語　六樹園飯盛作　葛飾北齋画　六冊

新編水滸画傳　曲亭馬琴譯　葛飾北齋画　十一冊

標注その雪　同作　同画　五冊

狂歌雪月花　六樹園撰

雪月花三題の秀歌を集め十二月の部を分つ

自讃狂歌集　撰者右同　諸名家画　後編近刻

狂歌新撰調度集　撰者右同

諸君子の恋歌をあつむ

飲食狂歌合

六樹園先生その撰に狂文を添へてすりたる狂歌合なり

狂歌五百題　金雞著　小本一冊

寒燈夜話 小栗外傳　小枝繁作　葛飾北齋画　前 中 後 十六冊

春宵奇談 東嫩錦　右同　全五冊

春宵夜話 玉乃落穂　右同　前編 後編 十冊

假名手本後日文章　烏亭焉馬作　葛飾北齋画　五冊

藏板書目

忠孝潮来府志　馬馬作　北斎画　五冊

和漢朗詠集獨稽古　全二冊

御成敗式目獨稽古　全一冊

雑書年代記大成　一枚摺

画本葛飾文庫　前北斎戴斗老人筆

當時流行る所の作人の画とハ異なり一流の風
勝れし一筆の際本を要とす

江戸往来獨稽古

画本外傳　前北斎戴斗老人筆

鳳眼燕尾の筆意ホあらまし〳〵其のほか画乃
いろは母ときの書なり

東都畫工　北斎改　葛飾戴斗

同　校合門人　魚屋北溪

同　斗園樓北泉

尾陽名古屋校合門人　月光亭墨僊

東南西北雲

文化十三年子春

江戸日本橋四日市　竹川藤兵衛

同　本石町十軒店　英屋平吉

同　麹町平川二丁目　角丸屋甚助

J. Talmage White